

昭和62年度 和歌山県文化功労賞

にし ばやし くに いち (号 凡石)
西林 國 一

住 所：埼玉県新座市

出 身 地：和歌山県橋本市

生 年：明治39年

◎業績及び経歴

昭和5年、益田石華に師事、書道を学ぶ。戦後すぐに和歌山書人会結成に参画、同会では昭和30年からは会長を務められ、また、昭和22年県展創設に参与し、昭和60年まで審査員を務める等、本県の書道文化の発展向上に尽くされた。

作品は多くの人に広く理解されるようにと、誰にでも読める書体、解りやすい素材を選び、近代詩文を最も得意とした。

氏は、在野の書道家として、広く本県の書道普及に尽くされる一方、昭和40年第1回から昭和60年第21回まで、高野山奉納写経会を開催する等、本県の文化活動に貢献した。

その他、県内外での個展や陶芸家、洋画家との合同展を開催する等、発表活動にも意欲的に取り組まれる一方、日本書芸院審査員、毎日書道会展参与会員(昭和59年より)、県書道協会副会長(昭和41年より)なども務め、後進の指導にも尽力された。